



# サルビア

令和3年11月18日 第79号

## 5年生 社会科見学へ行ってきました。 (桐生織物参考館・上毛新聞印刷センター)

5年生の社会科見学では「人間の知恵と工夫」に圧倒されました。桐生織物参考館では伝統の織物と、機織り機の変遷などを学びました。たくさんの機織り機が年代ごとに並べられ、よりよい物を効率的に生産するために少しずつ機械に改良を重ねて来たことがわかります。その発想を実現するために先人が知恵を絞り、長い時間をかけて工夫してきた結果なのですね。



3人がかりで扱うジャンボ高機たかはた（明治時代）  
代表児童が体験しました。  
左右に横糸を渡すのが難しい。



藍染め体験です。独特のにおいですが、藍が  
生きている証拠です。

染め上がったハンカチはお土産です。「すぐに洗濯機に入れず、家でもう一度石けんで洗ってくださいね。」スタッフの方の注意を守れたでしょうか？そうしないと洗濯物が・・・

午後は、上毛新聞印刷センターの見学です。上毛新聞のNIE（Newspaper in Education）推進委員の方からお話を伺いました。発信する側は、一つの言葉、一枚の写真をたくさんの方が吟味して責任ある紙面を作らねばならないこと、受け手側は、たくさんの情報に惑わされず、冷静に判断する力が必要であることを事例を交えながら話してくださいました。これから間違いなく大人の私たちが経験したことのないような情報化社会を生きていく子どもたちです。どのように情報とつきあっていくか、しっかりと考える機会になればと思います。



真夜中にフル回転する印刷センターの内部です。トイレットペーパーの巨大版のような重さ1.4tもあるロール紙がセットされます。運搬には専用の機械が工場内を動きます。コンピュータ制御された工場内ですが、機械の点検や管理には人間の目も大切なのですね。

機織り機も、最新のAIロボットも 人間の知恵と努力の結晶。  
みんなの役に立つように技術者の願いが込められていると改めて感じました。